

平成 27 年度 第 3 回みたけ創生有識者会議

日時	平成 27 年 10 月 5 日(水) 15 時 15 分～	
場所	みたけ華ずし	
委員	出席者	黒田晃司、永谷嘉規、永井明子、小林智尚、水内智英、谷口清治、齊藤公彦、柴田永治 順不同敬称略
	欠席者	なし
みたけ 政策アド バイザー	出席者	野中幸広、佐藤金吾、可知和徳 順不同敬称略
	欠席者	なし
事務局	町長 渡邊公夫 総務部長 寺本公行 企画調整担当参事 葛西孝啓 企画課 各務元規、高木雅春、川上敏弘	

1 開会

(事務局)

皆さま、こんにちは。本日は、お忙しい中、お集まりいただき、ありがとうございます。皆さまお揃いのようなので、定刻より早いですが、只今から、「第3回みたけ創生有識者会議」を開催します。本日、司会と進行を務めさせていただきます企画課の各務と申します。よろしく願いいたします。それでは、開会にあたり、町長より挨拶を申し上げます。

2 町長あいさつ

(町長)

皆さま、こんにちは。お忙しい中、お集まりいただき、ありがとうございます。本日は3回目の会議となります。本日をもって、私の司会進行は終了した方がよいと思っています。前回の会議で、私は、しゃべりすぎであったと反省しました。終わってからのの方が、よい議論ができたので、本議会も、全体に柔らかな雰囲気で行ってきたいと思います。

「みたけ華ずしの会」は、観光のひとつとして、華ずしを自分でつくっていただく参加型で運営をしています。補助金で、玄関の右手に厨房を作り、皆さまに華ずしづくりの体験をしてもらっています。

人口問題については、日本全体で減少しています。人口が減少すると、町に魅力がないのかと心細い思いになります。人は移動していくものなので、なかなか終のすみかにはしてもらえませんが、御嵩町にずっと住み続けてほしいと願っています。御嵩町に何か足りないかを、テーマとして考えていくべきであると思います。自治体として人口が増加している所もあれば、減少している所もあるので、できれば、増加していく状況をつくっていききたいと思います。

ネガティブなイメージは広がりやすいものです。悪いニュースは何度も放送しますが、良いニ

ニュースは1度しか放送されません。なので、御嵩町の良いニュースを発信していきたいと思いません。

昨年、「みたけ華ずしの会」が、フランスでプロモーションを行い、そこで華ずしを芸術として位置づけてもらえました。最近、中山道の宿場町である御嶽宿にも外国人が来て来ています。

「外国人にとって魅力的な町を、日本人が考える」というのも面白いと思います。観光を全面に打ち出し、面白い案内ができるのではないかと考えています。この2階にも部屋があるので、日本を体験してもらえように畳の部屋で、外国人向けの民宿を行うというのも面白いのではないのでしょうか。

人口は維持をしつつ、できるだけ増加させていきたいと思っています。御嵩町を知ってもらい、どの様なまちかを知っていただきつつ、選択肢に入れてもらえるようなまちにしていきたいです。

かつて、御嵩町から出て行く人は、かなり大志を抱いていましたが、今は「とりあえず都会へ行け」というようなことになっているのではないのでしょうか。優秀な人材がそうなのは、もったいないと感じています。町を維持していくには、数は力になるので、そこにつながるような議論をしていけたらと思っています。

(事務局)

本日は、仕事、経済、農林業、観光等の活性化についてが、主なテーマとなっています。この有識者会議ですが、みたけ政策アドバイザーとして3名の委託をさせていただいたので、紹介をさせていただきます。

めぐみの農協の野中幸広さん、東農信用金庫御嵩支店の可知和徳さん、とうしん地域活力研究所の佐藤金吾さんです。それぞれ自己紹介をお願いします。

(野中委員)

めぐみの農協の野中です。みたけ政策アドバイザーとして当支店が委託を受け、感動しています。一支援者として、一生懸命に仕事に務めて参りますので、皆さま、どうぞよろしく申し上げます。

(可知委員)

東農信用金庫御嵩支店の可知です。金融機関もいろいろ役割があり、私たちは「地元と共にあり共に栄える」というスローガンを掲げています。微力ではありますが、有識者たちのサポートができればと思っています。日々、地域の皆さまと、フェイストゥフェイスで関わる中で、何か役割が果たせればと思っています。御嵩町は歴史あるまちなので、良いところを見つけて、一緒に考えていきたいと思っています。皆さま、どうぞよろしく申し上げます。

(佐藤委員)

とうしん地域活力研究所の佐藤です。可知委員と同じく、東農信用金庫に属しているのですが、私の方では地域の動向調査等を行っています。地域の活性化をメインテーマに活動している部署です。仕事上、岐阜県内の多くの近隣市町村のアドバイザーになっているので、そのような情報を踏まえながら助言していきたいと思っています。皆さまどうぞよろしく申し上げます。

(事務局)

それぞれ自己紹介をありがとうございます。新たに3名を、みたけ政策アドバイザーとして迎え、議論を進めていきたいと思っています。

本日のテーマの、仕事や経済の活性化、観光面にあわせて、中山道御嶽宿において、御嵩町の地域活性化に貢献していただいている「みたけ華ずし」の拠点の店で開催させていただいています。昨年度、フランスで開催された国際観光展に岐阜県と一緒に御嵩町長が参加し、「みたけ華ずし」についてトップセールスをしました。そのような実績がある華ずしです。後程、お手元に、華ずしとお茶を配布しますので、是非、ご堪能くださいませ。

先ほどの町長の話にもあったように、今回は町長が司会を進めさせていただきますが、終盤においては、この委員会の会長を選出していきたいと考えておりますので、ご協力を、どうぞよろしくをお願いします。

国への総合戦略の提出は10月末なので、本日の議論を経て、最終案をまとめていく作業が、次回の内容になっています。この作業に向けて、各委員に今回の会議以外にも、個々に確認をさせていただくことがあるかと思っておりますので、その際には、ご協力をよろしくをお願いします。

(事務局)

では、事前に配布した資料に基づきまして、担当から簡単にご説明をさせていただきます。

<資料に基づき事務局より説明>

(町長)

人口問題は大変切実な問題であると、委員の皆さまにも、ご理解いただけたと思います。

私は議員を3期務め、20年経ちます。あるとき、上之郷地区において、母子手帳の発行が6人しかありませんでした。しかし、小学生になった時には10人程と、子どもの数が増加していました。その理由として、ある程度子どもが大きくなったら、地元に戻ってきている人が多いのではないかと考えています。

私の息子も、現在は春日井市に住んで、名古屋市で仕事をしていますが、子どもが小学校入学前には、御嵩町に戻ってくる予定です。一概に、出生率ではかれない部分もあると思います。

ほとんどが、大学進学を機に出て行き、そのまま都会に住みついてしまう人が多いので、戻ってきやすい環境を整えるべきではなんでしょうか。

昭和の時代では「長男は地元に戻るべきだ」という考え方があり、戻ってくることを意識しながら学生生活を送っていました。最近は、そのように教育されていませんが、昔のような考え方も必要なのではないかと、改めて感じています。「仕事」と「住む場所」の関係で、「仕事場と住居が近いところは嫌だ」という意見も聞きます。そういう意向を企業として、つかんでいるのでしょうか。

我々の世代としては、職場と住居が近い方がいいのではないかと、なるべく職住近接がよいのではないかとありますが、企業側の対策として、何か考えてはいるのですか。

(黒田委員)

私は人事を担当していますが、住居の異動届の際には、機会があれば理由も聞くようにしています。町長が今おっしゃったように、職場の近くに住居を構えれば通勤には便利ですが、それは通勤だけのこととなります。最近では、買い物などの利便性を優先する人が多いと思います。御嵩町の新築を探すと良い物件があまりないという声も聞いており、むしろ、中古物件を購入する人が多いと聞きます。

南山台や大場台に建てた家が世代替わりをする時期でもあります。しかし、土地が狭くて2世帯を建てられず、可児市に2世帯住宅を建てる人も多くいます。そして、ほぼマイカー通勤なので職場に近いことはそれほど重要ではない人が多く、御嵩町内の会社に勤めているので御嵩町に住みたいという人は少なくなっています。

(町長)

最近では、学校が近いことが重視されている傾向があります。父親の通勤時間より、子育て環境や教育レベルなど、子どもの将来の方を大事に思い、母親の意見が優先されています。私が町長として、特色のある教育を充実させたいと思っているのは、このような背景があるからです。

ちなみに、中古物件はどのように知るのでしょうか。

(黒田委員)

不動産屋で知ると思います。特に、南山台や、東農高校の前などで中古住宅を購入された人が多いです。

可児市に行った人の中で、御嵩町は自然が豊かなために、虫が出るので嫌だという意見もあります。

(町長)

やはり女性の意見が、決定権あるのですね。

御嵩町の傾向として、谷口委員はどのように考えていますか。

(谷口委員)

住宅ローンを組む立場としては、可児市、美濃加茂市なども含めた広いエリアで考えていった方が良いでしょう。そのなかで「教育がよい」「子育て支援が手厚い」などをアピールしていくのは良いと思いますが、企業に近いから住んでもらうというアプローチはあまり正しくないと思います。

(町長)

斉藤委員に質問ですが、町や村となると「教育レベルは低い」と感じますか。

(斉藤委員)

教育レベルについてはそんなに思わないです。逆に自然が豊かな中で子育てをしたいと望む人もいると思います。むしろ、外出するときに行くところがないことの方が課題に感じます。

若い人が物件を探すときに、御嵩町の物件があまり掲載されていないことが多いと思います。名古屋市不動産屋に御嵩町のアプローチをしていくのも良いと思います。上手く外に御嵩町の良さを広げていければ、移住してくる人も増加するのではないのでしょうか。

(町長)

先日、「町イチ！村イチ！2015」というイベントを東京都の有楽町で行いましたが、そもそも岐阜県の認知度が低かったです。近隣の長野県や愛知県、名古屋市、豊田市などの認知度は高かったので、次回からは、広域の地図で岐阜県をアピールしていきたいです。岐阜県職員の永井委員は、どのようにPRしていけば良いと思っていますか。

(永井委員)

全国的に岐阜県の認知度が低いことで苦戦していました。特に関東、関西で認知度低いと感じました。私は美濃市に住んでいますが、知人の開業医で、父親の医者も美濃市に住んでいるのですが、母親は「教育が良いから」という理由で名古屋市に住んでいるという人がおり、残念に思っています。岐阜市の長良地区は教育レベルが高く人気があります。そういう意味では教育は人を呼ぶ力があるのかなと思います。私も就職で美濃市に戻ってきて、最初は苦痛でしたが、歴史があるまちに育ったというプライドに価値を求める人に訴えていくのが良いのではないかと思います。町の自慢をすると友達にも珍しがられたりします。人と違ったまちに住んでいるというプライドがPRになっていくと思います。

(町長)

苦痛というのは、どのような意味ですか。人との距離が近すぎるからでしょうか。

(永井委員)

田舎なので、電車の本数も少なく、とにかく不便なところですよ。

(町長)

あえて、そのような田舎を選択した永谷委員はどのように思っていますか。町は市より行政サービスが悪いというイメージがありますが、御嵩町を選んできた理由は何ですか。

(永谷委員)

御嵩町に叔父が住んでいて、地域就農したいと相談したら上之郷を紹介してもらいました。その前に愛知県と長野県や関東も回りましたが、大きい自治体の方が冷たい対応でした。名古屋市だと農地も限られているので、郊外の豊橋市等に行ってくださいと言われました。比較的大きな自治体でも、意外に親身になってくれないものだと実感しました。御嵩町は地域就農に大変協力的で、かつ親切さがあり、将来的にも安心して住んでいける気がしたので、御嵩町を選びました。安心感が決め手になりました。

(町長)

永谷委員の行っている農業は、組織に頼らない農業ですが、私共は農業の組織化、ビジネス化について考えています。それについては、どのように考えていますか。

(永谷委員)

「これから世界を救えるのは有機農業だ」と使命感に駆られて農業を始めたのですが、一番大切なのは「人と人とのつながり」だと感じました。今は食に関する問題が多く、偽装も多発していますが、人と人とのつながりがあれば、そのようなことも起こらないのではないかと思います。とはいえ、実際に食卓を支えているのは大規模農家なので、大規模農家が悪い訳ではありません。畑の中の例えですが、農薬を使わない方法として、植物だけでなく動物も含めて、とにかくいろいろなものを一緒に育てていく、というやり方があります。多様性のなかで育てることで、虫がつかなくなる、というものです。それと同じように、いろいろな農業のやり方や多様性の中でバランスを取っていくことが大切だと思います。

(町長)

永谷委員に御嵩町で就農していただくにあたって、一番心配していたのは、誰がどのように購入してくれるのか、というところでした。今はどのような顧客がいるのでしょうか。

(永谷委員)

御嵩町、可児市、多治見市、土岐市の一般家庭を対象に火曜日と金曜日にお届けをしています。最初は購入先に苦労しましたが、今は人とのつながりの中で、安定しています。有機農業はもう根付いているので、新規就農もそんなに苦労しないのではと感じています。

(町長)

有機農業は高級食材になってくると思います。今後、地球で争い事が起きるとすれば、食料とエネルギーに関連したものになってくるかと思っています。地球定員 100 億人まで、という説もあります。地球でまかなえる食料とエネルギーは 100 億人まで、というものです。

大量に生産する立場の野中委員はどのように考えていますか。

(野中委員)

今の話と正反対で、組織や団体の全体を見据えると、今、JAが直面しているのは、「集落営農として、果たしてやっていけるのか」という問題です。農業がやりたいけどできない、という人がいます。背景としては、農業従事者の高齢化、後継ぎ問題などがあります。それを解消するために、国の施策として「農地中間管理機構」というものがあり、御嵩町でも農林課に指導を頂きながら行っています。農業がやりたいけれどできない人と、農業ができる法人などの組織との間に入る公的な機関として、農地貸付などを行う事業ですが、なかなか、ままなりません。めぐみの農協としては、平成 26 年度のうちに「集落営農ビジョン」を策定しています。農業ができる範囲のなかで、それぞれビジョンを立てています。これは組織でないとやっていけないことかと思っています。しかし、今お話いただいた通り、組織だから動かない、というところもあるかもしれません。小回りがきく、ということも大切だな、ということ、今のお話を聞いて思いました。

(町長)

組織化していくことにエネルギーを使ってしまうと、実際の農業は動かなくなります。今はスピード感が必要です。今後は、耕作放棄地も増え、誰がどのように面倒を見ていくかが大切になってきます。空き家条例をつくったのなら、空き地条例もつくってほしいとの意見もありました。農地も資産であるため、地権者意識による軋轢から、貸したりしない人が多くなっています。行政が行うのがよいのか、JAが行うのがよいのかは別として、農地を活かすように仲立ちをする人が必要であるため、行政とJAが協力して改善していきたいと考えています。

話は変わりますが、商工業はどうでしょうか。風前の灯のような所が沢山あり、大型商業施設が来ることも決定しているので、これからの地元の産業や振興をどのように考えていますか。

(可児委員)

よく分からないというのが、本音です。お店というと、どうしてもインターから向こう側をイメージしてしまいます。親世代の経営で終わっていくのか、というところもありますが、家業を継いでいけば、商工会の青年部の方を盛り上げていく必要があります。若手の経営者から、また違った意見も出てきているので、勉強会などで繋がりが持てればと思っています。

(町長)

私が商工会青年部だった時も「商」「工」の「工」の方が元気でした。大型商業施設が来るとしても、商業の方は「守ろう」という意識が強く、先代の目もあり、なかなか外に目を向けるのが難しかったりするので、若い人も苦労していると思います。

小林委員の教え子にも、親が自営業をやっている人がいると思いますが、そのような話は話題になりますか。

(小林委員)

私の教え子は、サラリーマンの子どもが多く、あまり定住に意識がないです。私は埼玉県出身で岐阜県の位置が分かりませんでした。関東の方は戦後の動乱の中で、地方の人が集まってできたまちが多いので、動くことが苦にならない人が多いと思います。逆に東海地方の人は小さいエリアながら生活がしやすいので、就職の際には地元から出たがらない人が多いです。ですので、土木業界ではこの辺りは良い人材が集まっていると言われています。岐阜大学に来る人は、半分は愛知県出身の人が多く、卒業すると引き揚げてしまう人も多くなっています。

空き家対策条例とは、具体的に、どのような事をされていたのですか。

(町長)

家財道具をそのままにして、御嵩町から出て行った人に登録してもらい、町が不動産仲介をしています。永谷委員が住んでいる家も、条例に沿った家ではありませんが、地元の人々の好意で貸してくれた家です。行政がきちんと条例でやるよりも口コミのほうが、話が早くまとまっている感じもしています。

(小林委員)

私は岐阜市の城下町に住んでいまして、そのまちづくり会に参加しています。廃れた商店をどう救っていくかということを考えています。そういうところに出てくる方は高齢の方が多くみられます。それとは別に、「若旦那の会」というのも最近盛り上がっています。そういう人は親世代のことに興味がなく、変えていきたいと考えています。高齢の方が「仲間になれ」と言っても、「嫌だ」と自身の意思を持っています。世代交代していくのが大切だと思います。広い家でも、先祖代々で渡せず、いつまでも崩れた家があったりするので、ある程度、若い世代に任せるのも、ひとつの良い方法だと思います。

(町長)

商売が続いていくのには利益の問題もありますが、世襲制、いわゆる経営権をどうしていくかを乗り越えないと、やっていけません。父親が身を引かず世代交代をしないことで、若い人がいつまでもお手伝い止まりだったりしています。過去に縛り付けられる傾向があり、新しい流れをつくれない事は非常に大きい問題であると思います。

町としての全体を見て、まちづくりのデザインとして、水内委員はどのように感じますか。

(水内委員)

御嶽宿など歴史を感じる部分もありますが、廃れた商店や住宅などが多く、少し疲れてきている印象を受けます。これから、賑わいをどのように取り戻すのかという感じもします。一つひとつを見ると、高いポテンシャルは感じるのですが、そこをどうマネジメントしていくかが課題であります。すごく面白い旗印になるようなお店があるところは、そこが核になって発展していたりします。

(町長)

現在、御嵩町は「御嶽宿わいわい館」にそのような機能を持たせようと考えています。そこで、「1 DAYシェフ」という取り組みを行おうと考えていましたが、実現せずに残念ながら計画は止まっています。週に1回そのような企画を行えば、そのシェフのファンが御嵩町に来てくれると思いました。いずれこの企画を実現させたいです。

(佐藤委員)

移住・定住・子育てなどは、どこの市町村でも大きなテーマでやっています。

可児市では行政で婚活支援をすることは難しいとのことでした。様々な批判も出るだろうし、もしそのような企画があるのなら、商工会やNPOに事業委託をするとの返事でした。多治見市では婚活事業を行いたいと言っていました。今、産まれても、成人までは20年かかるので、子育てと移住定住の二本立てで魅力あるまちづくりを行っています。近隣都市で人口維持がしばらくできそうなのは美濃加茂市です。しかし問題もかかえており、一部の地域に人口が集中しているので小学校がパンクしそうな状況ですが、過疎化が進む地域では、クラスが減ったりしています。そのような市では、地域ごとの対策が必要になってきています。

全国幸福度ランキングをみていると、岐阜県は中くらいの位置にいます。所得は東京都が一

番です。愛知県は3位です。何をもちて幸せを感じるかをアンケート調査したところ、最も多かったのが「教育が重視されている」という回答でした。北陸の富山県・石川県・福井県は県民が自ら幸せだと言っています。教育というのはまちづくりの中で、大きなウエイトを占めていると思います。

私は生まれてからずっと加茂郡八百津町に住民票を置いています。八百津町からみると御嵩町は高速道路も、名鉄電車もあるので羨ましいです。

政策については、できることからやるのではなく、「就労の場をつくる」「教育の場をつくる」など、同時に進行していかないといけないと思います。御嵩町は名鉄電車の存続はなんとしてもやっていくことが、御嵩町創生において最も大切だともいます。可児市も御嵩町あつての可児市なので、市町村の行政連携が大切となるのではと感じています。広域でのまちづくりを検討し考えることも必要です。子育て支援についても抜本的な見直しも必要です。多治見市が今やっている郷土教育なども、必要ではないでしょうか。「人づくり」が郷土愛を助成すると思います。多治見市には大学はありませんが、岐阜県全体でみても、大学があるまちの方が少ないくらいです。進学を機にまちを出たとしても、就職・結婚を機に人を連れて帰ってくると、人口は増加します。「まちづくり」は「人づくり」ですので、まずは郷土を学ぶことが大切だと思います。御嵩町は「ヒストリー」は抜群です。知名度を上げるためには、何で有名になっていくかが大切になりますが、御嵩町には中山道の御嶽宿をはじめとする歴史があります。ブランディングには歴史が大切です。行政としては「子づくり」とは言いにくいと思いますが、3世代が共存・共生していけるまちづくりを目指して進めていくと、何か見えてくるかもしれないと思います。

(町長)

昭和の時代の「長男なのだから帰ってこないといけない」という教育も悪くないかもしれないと、最近では思っています。私たちの時代は、そのような教育が浸透していたので、学生時代だけでも外へ出たいと考え、帰るのは必然的なことだと思っていました。

先日の俳優の福山雅治さんが結婚したときに、官房長官が「これで、子どもを作って…」と発言したら、マスコミが偏った報道をし、問題が起きました。言葉尻を捉えられると怖いですが、ある程度は言うっておかなければと思っています。

マスコミの柴田委員はどのように、考えていますか。

(柴田委員)

愛知県の長久手市は、住みよさランキングの1位になりました。市長インタビューの中で「日本一わずらわしいまち」にしたいと言っていました。人と人とのつながりが大切であると思います。

大阪府の大空小学校では発達障がいの子どもなどもすべて受けいれています。いろいろな形で住民を巻き込み、住民が主体としてやっていかないと、新しい魅力ある地域づくりは難しいのではないのでしょうか。高齢者には「きょういく」と「きょうよう」、つまり「今日行くところがある」「今日用がある」ことが必要である、とも言われています。

(佐藤委員)

今の話は「みんなの学校」という映画の話ですか。映画を見て、感動して涙が出ました。2回観に行きました。本来の学校のあるべき姿だと感じました。ぜひ、御嵩町でも上映会をしてほしいです。

(町長)

御嵩町では重度の身体障がい者は別とし、御嵩町の予算で先生を雇い、特別な支援が必要な子をマンツーマンで見えています。県とは別で先生を16~17人プラスして雇用をしています。ぜひ皆さまにも知っていただきたいので、宣伝をしてほしいです。

(柴田委員)

ある自治体は、保健師さんの数を削って学校が困っていたりしています。

(町長)

しかし、障がいなのか個性なのかという線引きは大変難しいです。御嵩町の保育園で発達障がいの可能性有と診断される子どもは、全体の三分の一くらいです。個性なのか、障がいなのかは実際のところは分からないのが現状です。保育園と学校の連携も取りながら、今、どのような子どもが、どのような状態にいるのかを把握しながら、情報の交換もしながら、先生を準備しておくという、やり方をしています。

工業団地の方で発達障がいの子どもの持つ親が御嵩町の教育システムを評価し、御嵩町に住んでくれました。

他に、これまでの発言に対しての、感想や反論等、ご意見はありませんか。

(黒田委員)

空き家条例の流れで、聞きたいのですが、平芝工業団地のうち5~6社が、昔とは全く別の事業をしています。そのような場合、法人税はどうなるのでしょうか。

(事務局)

固定資産税は町に、法人住民税は基本的には本社があるところに税金が入ります。

(黒田委員)

30年も経たないうちに40%くらいの会社がそうになっています。新しい企業を呼ぶのも大切ですが、工業団地が廃れていくのは心配です。教育と並行して取り組んでほしいです。

(町長)

平芝工業団地が頑張っているのも理解をしていますが、どうしてもグリーンテクノの方に目がいってしまうところがあります。法人住民税でも、従業員の数によって違ってくるので、税の入り方の実態を調べつつ、今後、どうしたら良いのかを考えていきたいです。

(永谷委員)

世襲の話についてですが、有機農家で後を継ぎたいという人も結構多くいます。親父の背中をどうみせるかというのが重要となってきます。御嵩町にも優秀な企業が、沢山あるので、企業紹介や企業訪問で、子ども達にも知ってもらうような取り組みが必要ではないでしょうか。

(町長)

以前、中学生のパネルディスカッションを行ったとき、皆「働くところがない」という理由で出て行きたいと言っていました。御嵩町にはどのような会社があるのか、何をつくっているのかを全く発信できていませんでした。非常に安定している企業も多くあります。小学校で企業巡りを行ったり、夏休みなどは親も一緒に企業を巡ることで知ってもらえました。雇用についても、従業員の募集があれば、行政としても扱っていきたいと思っています。町民に知らせていくことによって、御嵩町のアピールにもなると思います。企業としては優秀な人材が早く沢山集まれば良いと考えているので、御嵩町の人雇用されればよいと考えています。

(黒田委員)

私は御嵩町に住んで7年目になりますが、地元にもどのような企業があるのかが、見えてこないです。そのようなアピールの仕方をすると面白いと思います。

月2・3回、日本全国の工業団地の誘致ということで市町村からアンケートがきて、返信しないと東京リサーチから電話がかかってくる。「自治体に望むことは何か」等を聞かれます。自治体は良い会社だと思って誘致してくれていると思うので、地元採用をできるように行政も動いてくれると企業として嬉しいです。

(町長)

企業誘致で気を付けたのは、企業を誘致したのであれば、人が集まるようにすることです。議員の立場で、随分、紹介しました。それが人口の維持に必要ななら良い事だと割り切ってやりました。もともと御嵩町にある企業からは町から優遇されすぎだと意見もありました。御嵩町の良い企業は、皆さまに紹介したいと思っています。

(永谷委員)

育児休暇について、企業としてどのように考えているのでしょうか。

(黒田委員)

我が社は、産休・育休すべて対応しています。今は結婚・出産で退職する人は減っており、8割は継続して就労しています。しかし休暇の間は、誰かを補充しないといけないので厳しい面もあります。経理や人事の給与など、専門的な仕事についている人の休暇は非常に痛いです。復帰しても時間短縮などがあるので、現場に残る他の社員は、補うために大変な部分もあります。

(谷口委員)

制度としてあるので運用はしていますが、現場としては大変です。そして、1人目・2人目と続くと、数年休暇を取るのも大変です。会社としても、女性の休暇については充分に対応できる

ようになっているので、雇用的には心配はいりません。

(永谷委員)

以前、私が勤めていた会社が小規模な会社であったので大変そうでした。大企業になると、しっかりとした対応になるので、会社の規模によるかもしれないですね。

(齊藤委員)

替わりと言っても、すぐには見つからないので厳しいです。3年休暇を取って良いのに1年しか支援しないので、支援も3年継続してほしいです。復帰しても時間短縮勤務なので、その分パートを増やしたりしないといけないので、もう少し法的なものも整うと、産休も育休も取得しやすいし、言いやすいのではないのでしょうか。

教育現場だと子ども達への継続性なども非常に難しく、負担が増えると保育料にも跳ね返ってきてしまいます。教育現場も企業も国も地方自治体も、負担をもっともう一度、組みなおさない限り、教育再生は難しいと思います。

(谷口委員)

働きながら子どもを育てる母親の負担は大変だと思います。負担の軽減を考えていかないといけないです。地域で温かく見守る仕組みができれば、御嵩町の良さが口コミで評判で広がっていくと思います。

(町長)

私の娘も、働きながら子育てをされており、その姿を見ていると、本当に大変だと感じました。最近の女性は、結婚したから、子どもができたからとの理由で仕事を辞める選択ではなく、継続して働きたいという人が多くいます。病児保育をきっちりやらないと、名古屋市に働きに出ている親は、通勤時間が2時間程度なので、早くても19時には帰宅できないのが現状です。そういうこともあり、やっぱり名古屋に住もうとなってしまう人もいます。今、産婦人科の医師と話し合うという計画も考えています。例えば、御嵩町の病院の一角に病児保育を作り、小児科の先生を置くなどで対策をしていきたいと思っています。

御嵩町の採用試験でも女性の方が、成績が良く元気の良い人が多いのですが、結婚・出産を考えると、こんなに多く採用してよいものかという不安もあります。行政については、寿退社は今後ないと思っています。様々な問題がありますが、女性の力は大切なので解決していかないといけない課題です。

(野中委員)

J Aでは通勤時間の短い人が多く、出勤前に実家の祖父母に子どもを預けて出勤する人が多いです。学校とすぐに連絡がとれるように、勤務中に携帯を持ってもらっています。

(町長)

本日は、時間となりましたので、これにて座談会を終了させていただきます。

ここまで、皆さまとお話しいただいた内容を事務局でまとめていきたいと考えています。これまでの話をまとめつつ、方向性を定めていくには、委員に会長をお願いしたいと思っています。

会長選任について、小林委員をお願いしたいと思いますが、皆さまよろしいでしょうか。

(小林委員)

私がお役に立てるが分かりませんが、皆さまの助けを借りて、会長を務めたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

(町長)

今後の会議にも、私も出席したいと思っています。口は出さず、皆さまの話を聞き、参考にしながら、最高のものをつくっていただけるように、お願いしていきたいと思います。形にはまったものではなく、自由に発想してもらい、御嵩町の将来を考えていただいて、今後はまとめに入りたいと思っています。

(事務局)

ありがとうございました。冒頭でお話をしたとおり、10月末までに、総合戦略をつくらなくてはなりません。本日、皆さまにいただいた意見をふまえて、最終案をまとめるにあたり、個別に内容を確認させていただくこともありますので、その際にご指導のほど、よろしくお願い致します。次回の会議は、私共で、概ねの素案を皆さまにお示ししたいと思います。次回は10月25日(日)10:15から、「中山道みたけ館」で開催させていただきます。

本日は、長時間にわたりご議論いただき、本当にありがとうございました。これをもちまして、「第3回目みたけ有識者会議」を終了させていただきます。

以上